

1730
聖徒伝 222

生き残って 信仰を貫こう

エレミヤ書 1章

エレミヤの召命

アウトライン

0. イントロダクション

I. エレミヤの召命 1:1~10

II. 滅びの啓示 1:11~19

III. まとめと適用

終わりに向かう時代を
預言者のように歩む

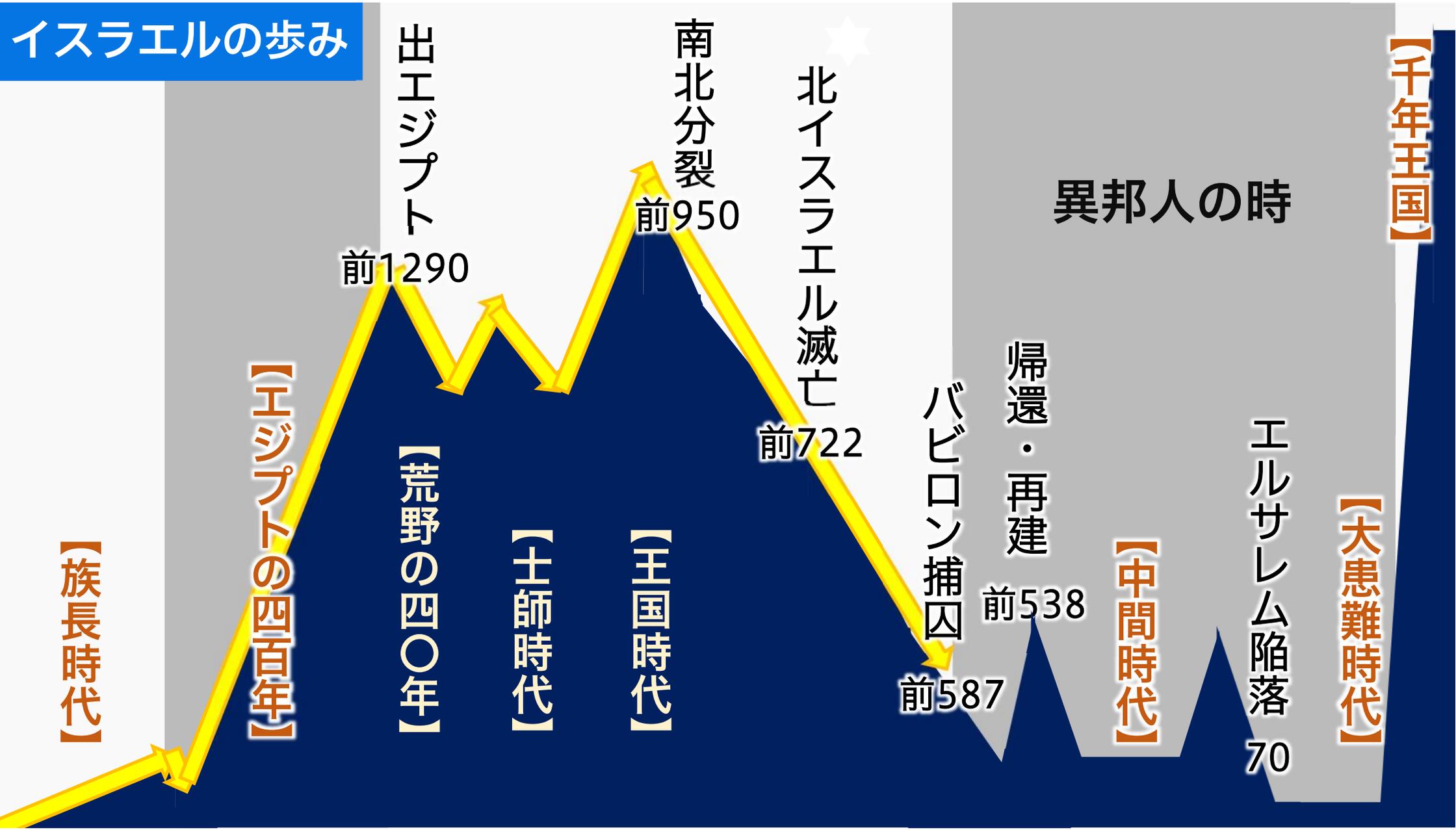
聖書引用 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会



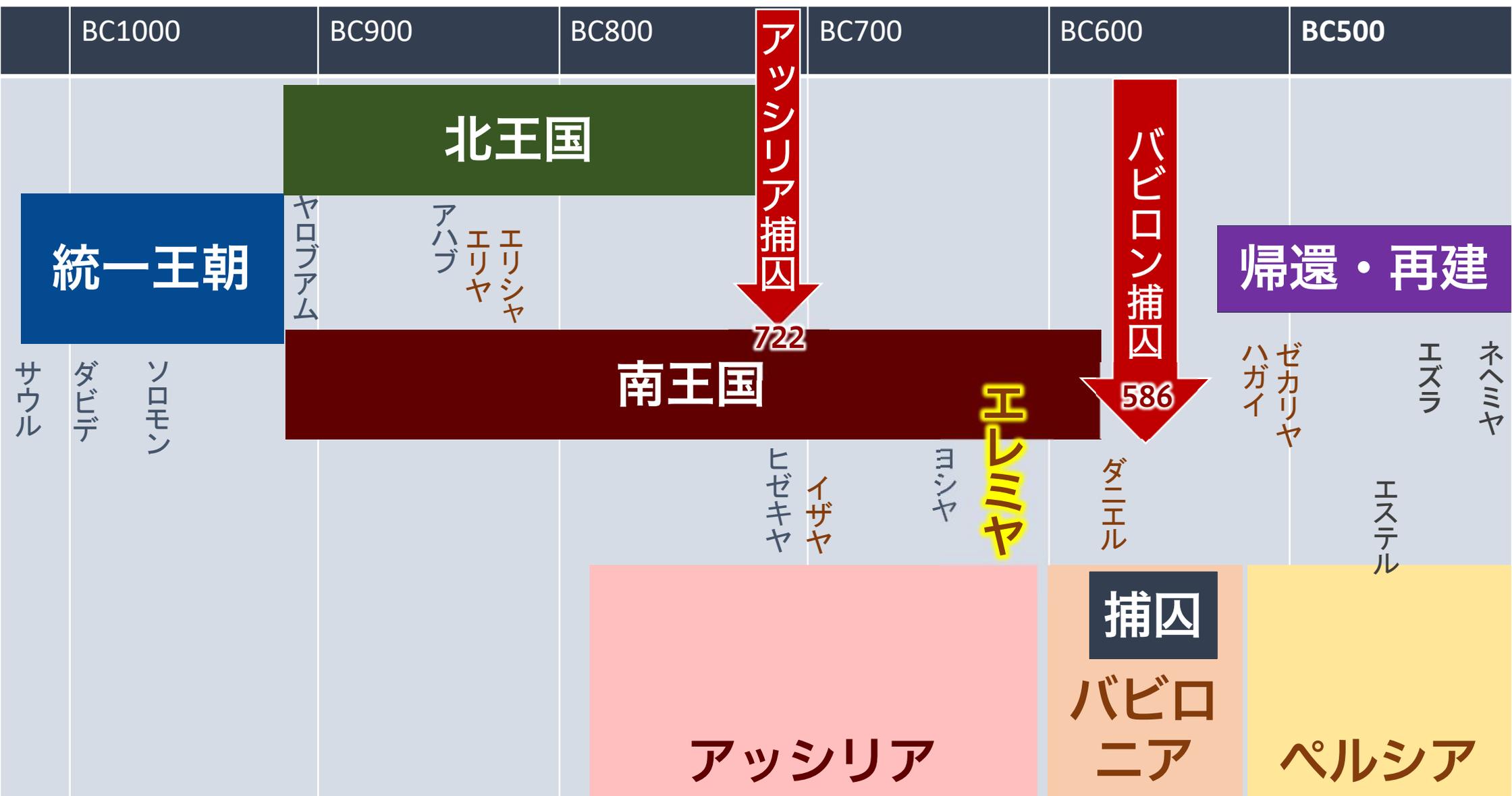


0. イントロダクション

イスラエルの歩み



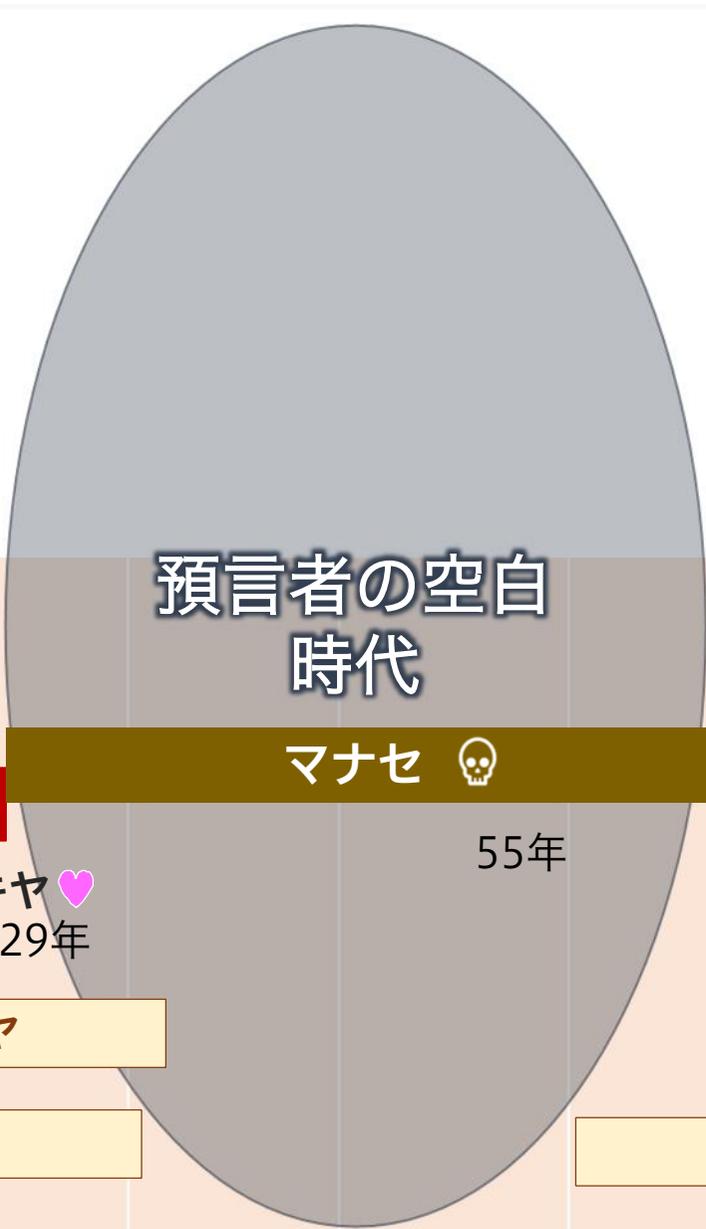
イスラエル王国史



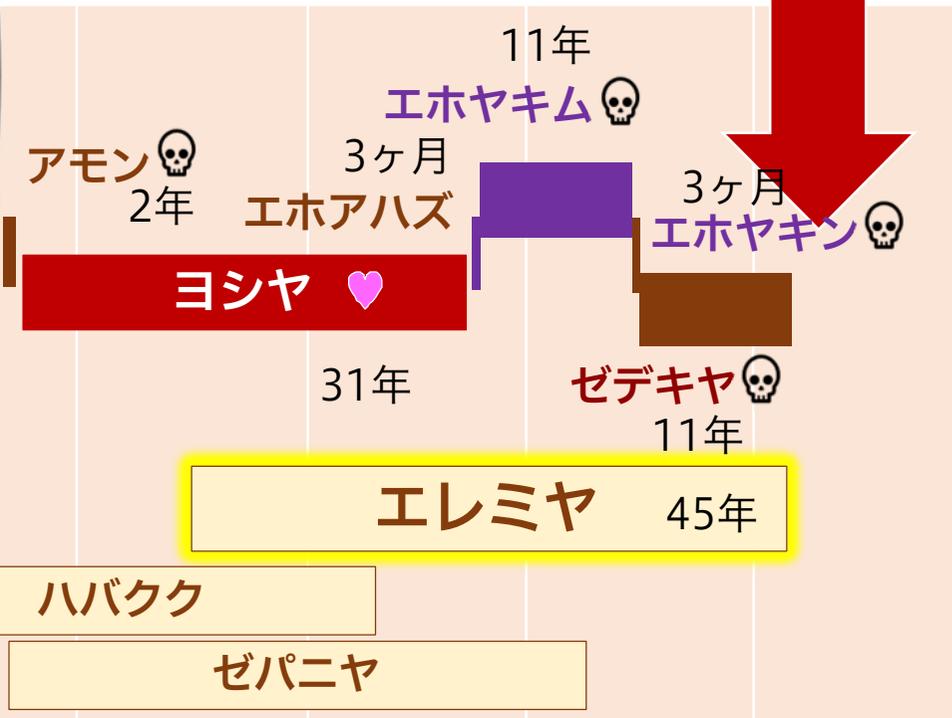
北王国
イスラエル

アッシリア捕囚
BC722年

南王国
ユダ



預言者の空白時代



バビロン捕囚

エレミヤが召命された時代

- 最悪の王マナセの暴虐の結果、南王国の滅亡は決定的!!
- 次代のヨシヤは、最後の善王。宗教改革を実施。
→ 南王国の滅亡は確定。覆すことはできない
- ヨシヤ王の死後は、めまぐるしく王が入れ替わり、
ついにバビロニアの侵略、滅亡 → **バビロン捕囚**

南王国が滅びに至る時代に派遣された 涙の預言者

1. エレミヤの召命

エレミヤ1:1~10



前書 アナトテの祭司 エレミヤ1:1

ベニヤミンの地、アナトテ*にいた祭司の一人、ヒルキヤ*の子エレミヤのことは。

*ダビデに仕え、ソロモンに追放された祭司エブヤタルの出身地。

➔ 虐殺されたアヒメレクの生き残り

大祭司の系譜から絶たれたエリの子孫

*“私の薬は主”

*“ヤハウエに高められた(任命された)者”

■ 大祭司の系譜から断絶された子孫が!!



前書 主の呼びかけ エレミヤ1:2

このエレミヤに【主】のことばがあった。
ユダの王、アモンの子ヨシヤ*の時代、その
治世の第十三年*のことである。

*南王国の最後の善王。律法(申命記)を
発見し、宗教改革。8歳で王位に。

*ヨシヤ王が実権を握り、宮きよめを開始。
第十二年(20歳)。アッシリアの占領地を
含む全イスラエルを巡り、偶像を破壊

民族的悔い改めの中での召命



前書 召命の期間 エレミヤ1:3

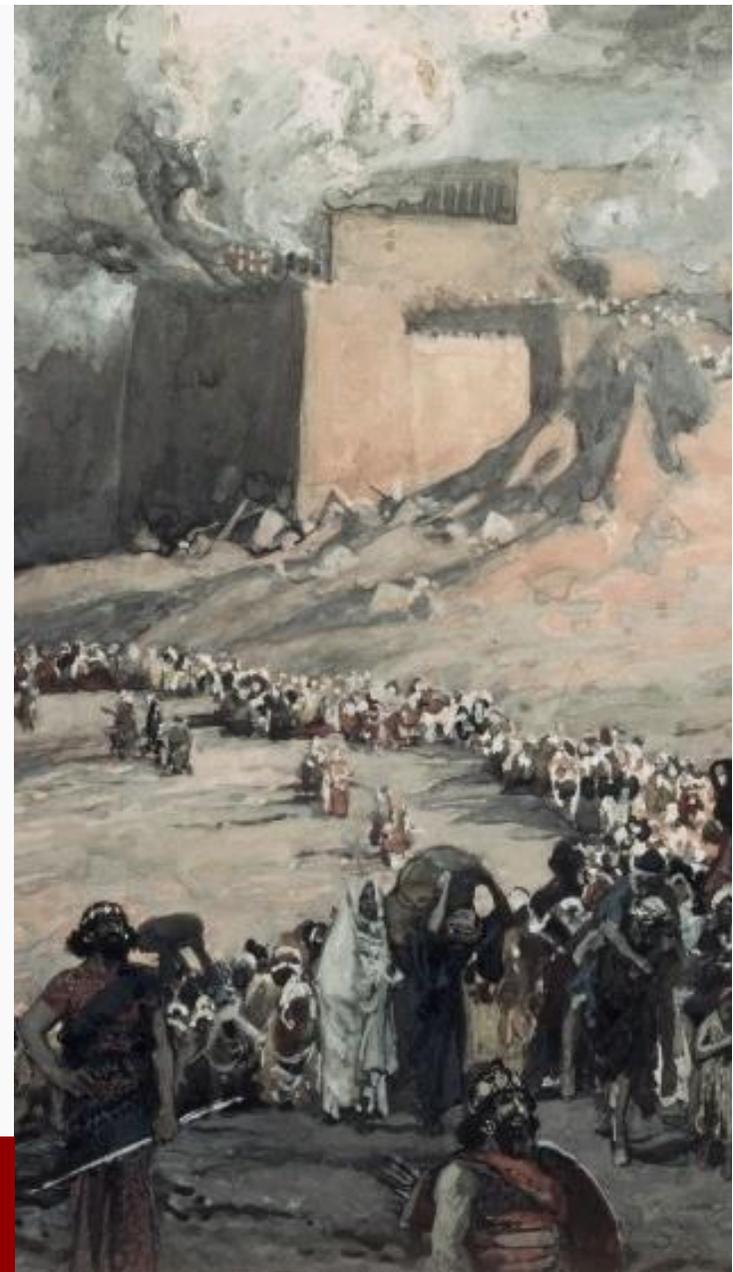
それはさらに、ユダの王、ヨシヤの子エホヤキム*の時代にもあり、ユダの王、ヨシヤの子ゼデキヤ*の第十一年の終わりまで、すなわち、その年の第五の月、エルサレムの民の捕囚まで続いた。

*バビロニア(ネブカドネツアル王)の初侵略

*南王国最後の王 →バビロン捕囚

■エレミヤの活動期間は、滅亡間近の末期。

滅び行く時代の預言者がエレミヤ



主の選びの基準と理由

コリント1:26~29

兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。

有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。

肉なる者がだれも神の御前で誇ることはないようにするためです。

召命 聖別 エレミヤ1:4~5

次のような【主】のことばが私にあった。

「わたしは、あなたを胎内に形造る前からあなたを知り、あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々への預言者と定めていた。」

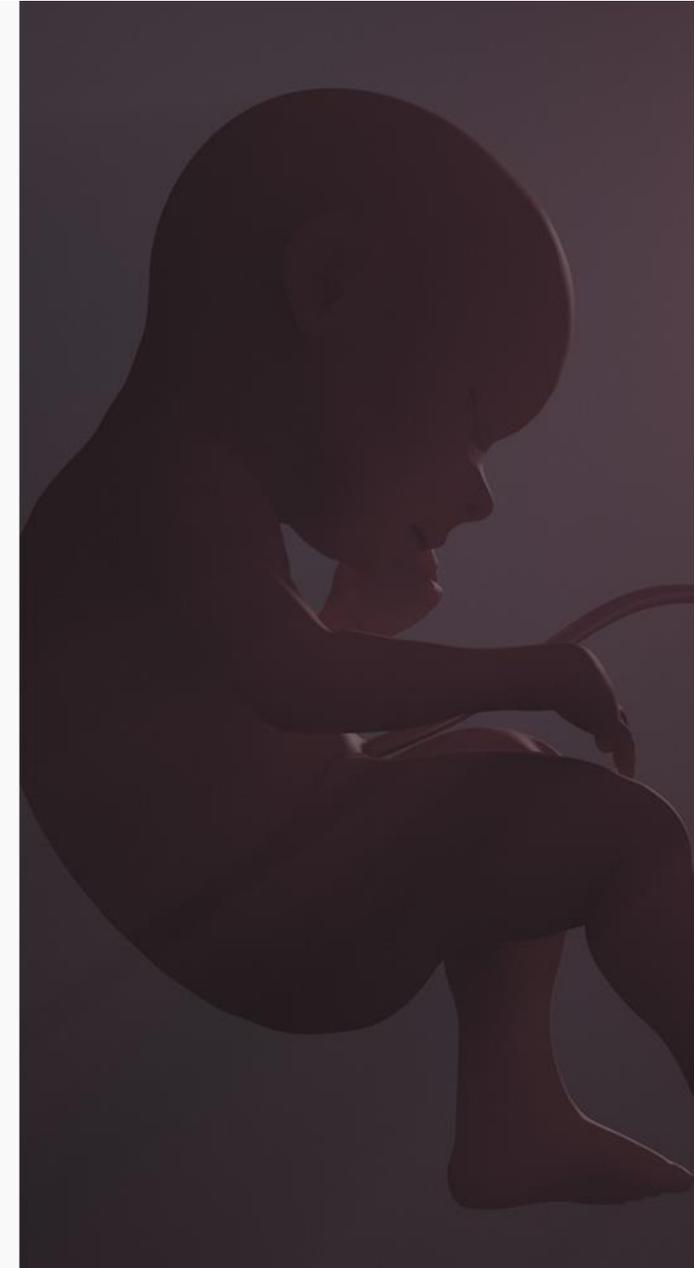
■胎内で聖別された聖徒たち

サムソン、ダビデ、

ヤコブ(=真のイスラエルすべて)、

洗礼者ヨハネ、使徒パウロ

→究極が、イエス・キリスト



世界が造られる前からの主の選び

■ エペソ1:4

すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方において私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

私たちの福音宣教の原動力

召命 戸惑い エレミヤ1:6

私は言った。「ああ、【神】、主よ、ご覧ください。私はまだ若くて*、どう語ってよいか分かりません。」

*祭司の就任は30歳 →30歳くらい？

■若くして召し出された人々

…ソロモン王、ヨシヤ王

→まだ若きヨシヤ王の時、若き預言者として
ただし列王記、歴代誌では記述なし

■世と異なる召命の条件。若すぎ、高齢すぎ…



力のない者を
主はむしろ
用いられる

召命 派遣命令 エレミヤ1:7~8

【主】は私に言われた。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ*。彼らの顔を恐れるな。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。——【主】のことば。」

*遣わされた所に行き、

命じられたことを語る

■主に従い歩むなら、主が助けてくださる。



召命 主の御手 エレミヤ1:9~10

そのとき【主】は御手を伸ばし、私の口に触れられた。【主】は私に言われた。「見よ、わたしは、わたしのことばをあなたの口に与えた*。

見なさい。わたしは今日、あなたを諸国の民と王国の上に任命する。引き抜き、引き倒し、滅ぼし、壊し、建て、また植えるために*。」

*告げるべき言葉は、主が与えられる

*イスラエルの裁きと回復が、告げるべき預言





II. 滅びの啓示

エレミヤ書1章11～19節

アーモンドとイスラエル

啓示 七枝の燭台 エレミヤ1:11~12

【主】のことばが私にあった。「エレミヤ、あなたは何をみているのか。」私は言った。「アーモンドの枝*をみえています。」

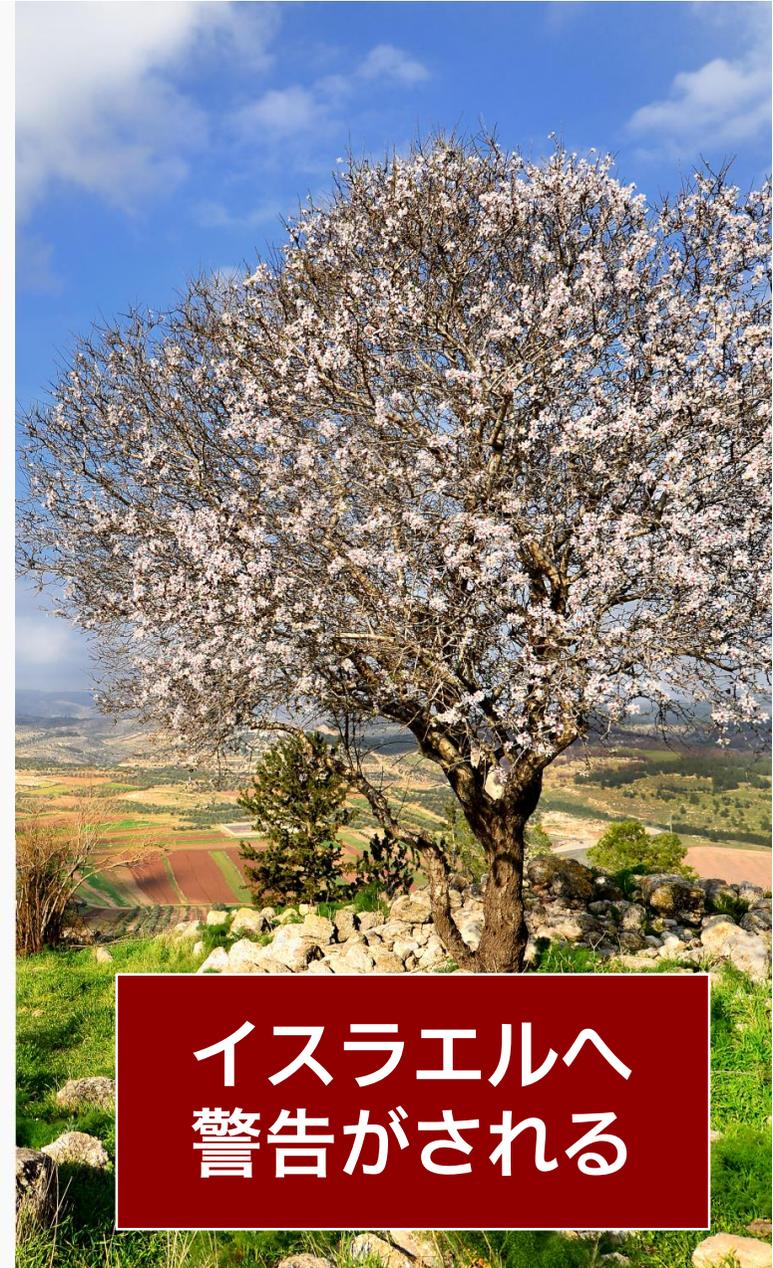
すると【主】は私に言われた。「あなたの見たとおりだ。わたしは、わたしのことばを實現しようとみ張っている*。」

*メノラー・七枝の燭台(出25:33)

➡イスラエルの象徴

*アーモンド(シャーケード)

み張る(ショーケード)



イスラエルへ
警告がされる

啓示 煮えたぎった釜 エレミヤ1:13~14

再び【主】のことばが私にあった。「あなたは何を見ているのか。」私は言った。「煮え立った釜*を見えています。それは北からこちらに傾いています。」

すると【主】は私に言われた。「わざわざいが北から、この地の全住民の上に降りかかる。」

*バビロニアの脅威

■ アッシュルバニパル王が死去、アッシリアは最盛期を終え、バビロニアが台頭。



啓示 エルサレム陥落 エレミヤ1:15

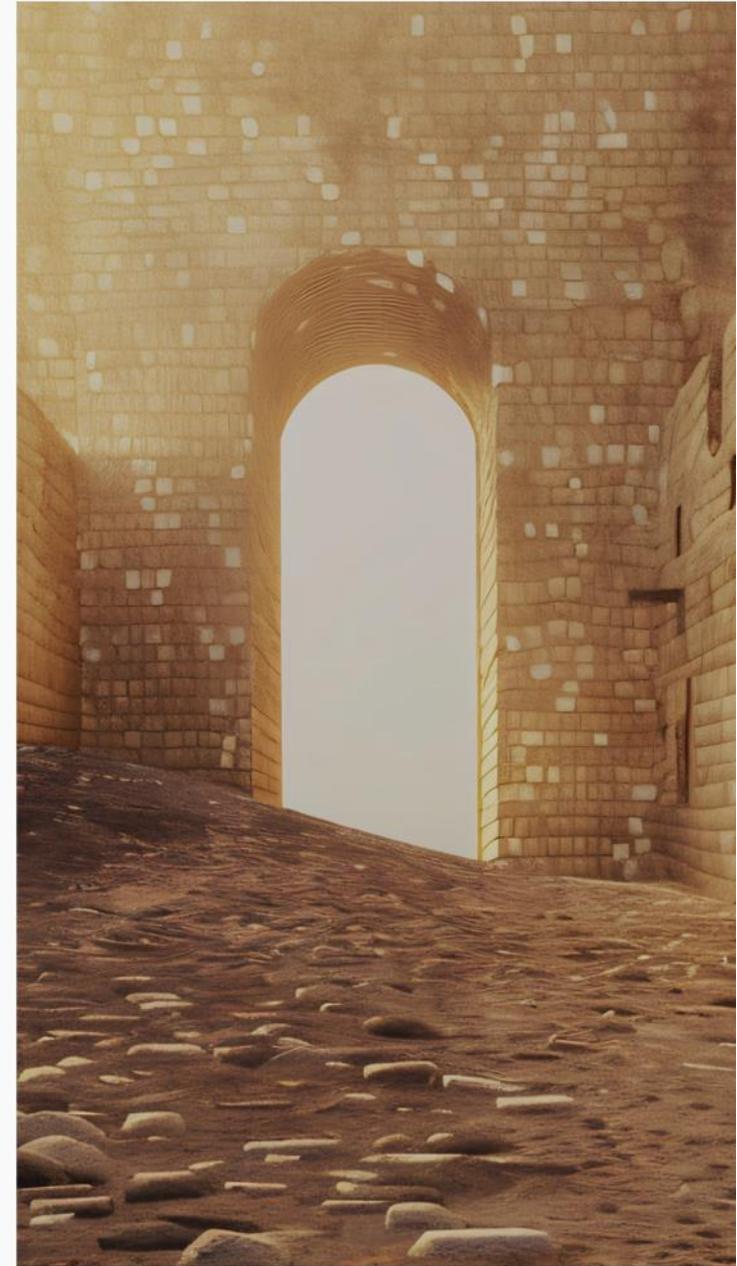
今わたしは、北のすべての王国の民に呼びかけている*。——【主】のことば——彼らはやって来て、エルサレムの門の入り口*で、周囲のすべての城壁とユダのすべての町に向かいそれぞれ王座を設ける。

*バビロン捕囚をもたらすのは主の御業

諸国を従え、バビロニアが侵略してくる

*門に町の統治機関が置かれた

➡エルサレムは完全に支配される

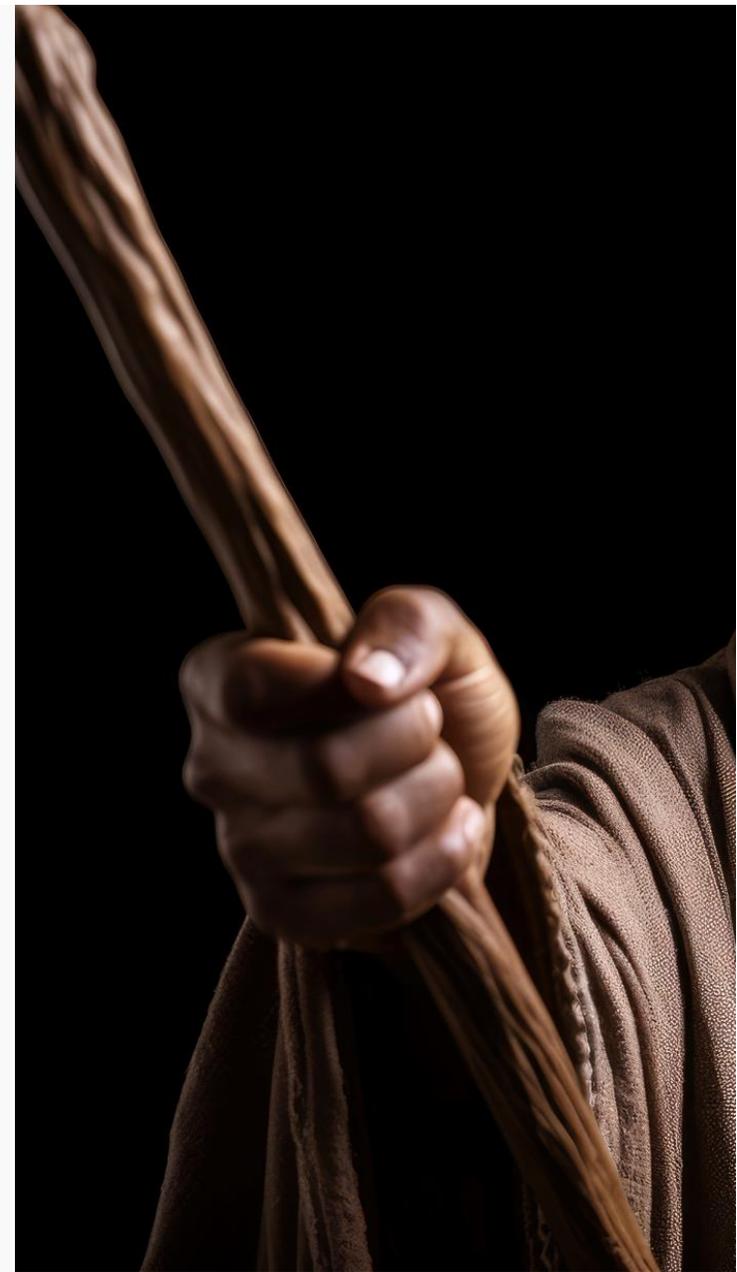


啓示 預言者の覚悟 エレミヤ1:16

わたしは、この地の全住民の悪に対してことごとくさばきを下す。彼らがわたしを捨てて、ほかの神々に犠牲を供え、自分の手で造った物を拝んだからだ。

さあ、あなたは腰に帯を締めて立ち上がり*、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。彼らの顔におびえるな。さもないと、わたしがあなたを彼らの顔の前でおびえさせる。

- エレミヤの使命は、覚悟して*、南王国の滅びを王と民に告げること



啓示 生ける城壁 エレミヤ1:18～19

見よ。わたしは今日、**あなたを全地に対して、ユダの王たち、首長たち、祭司たち、民衆に対して要塞の町、鉄の柱、青銅の城壁とする***。

彼らはあなたと戦っても、あなたに勝てない。わたしがあなたとともにいて、——【主】のことば——あなたを救い出すからだ。」

- 復興と繁栄のヨシヤ王の時代に、イスラエルの滅びを告げるのがエレミヤ
➡ 過酷な使命に立つゆえ、堅く守られる*





Ⅲ. まとめと適用

終わりに向かう時代を預言者のように歩む

ヨルダン川

エレミヤの召命を背景から考える

- 悪王マナセの時代の終焉。善王ヨシヤの下、信仰復興が開始。旧北王国も含め、全国で偶像を破壊。大リバイバル。信仰の回復は、物的な繁栄も、もたらしていただろう。
- 復興に沸くただ中で召命されたエレミヤが託されたのは、いよいよ間近にせまったイスラエルの滅びの宣告。
- 喉元過ぎれば、暑さを忘れるのが、人間だが、煮えたぎる災いを思い起こさせるのが、預言者エレミヤ

絶対に嫌がられる役割
最初から涙の預言者確定！

透けて見えるエレミヤの苦難

- 列王記(歴代誌)のヨシヤ時代の記事に、エレミヤは登場しない。
→ 律法発見の際に、王が相談したのは、女預言者フルダ
- エレミヤのヨシヤ時代の働きは地味？
王に疎まれていた？
側近がエレミヤを王に近づかせなかった？
- 復興の時代に滅亡を告げる、エレミヤの扱いがうかがい知れる。

エレミヤの預言者としての活動は、最初から地味で孤独

エレミヤの時代 と 今の時代

- イスラエルのバビロン捕囚目前のエレミヤの時代
- 終末の大艱難が迫る産みの苦しみの今の時代

どちらが、より困難な時代？

教会時代そのものが、世の終わりの時代

- メシアの登場は、聖書預言のクライマックス
- 聖書全体の流れの、大きな枠では、
教会時代そのものが、世の終わりの時代
- 教会の携挙は、いつ起こるか分からない!!
かつてなく迫る艱難。2千年途切れない緊迫感。

今の時代への警告

■ II テモテ4:1~4

神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。

けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。

Ⅱ テモテ4:1~4

「というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。 Ⅱテモ4:3~4 」

- エレミヤの系譜を継ぐ、パウロによる宣告。
(パウロは、ベニヤミン出身。エレミヤは、ベニヤミンの祭司)
- ネット上で激増。キリスト教系コンテンツ。Youtube動画。
バズるのは、世に受けやすい、教理から逸脱した「作り話」

闇を深める終わりの時代に 預言者のように生きる

■ 預言者は、日々をどう生活してた？ (エリヤ、エリシャを参考)

…ヨルダン川沿い、カルメル山、辺境に築いた共同体。

…支援者や、近隣の住民との関係性。地に足をつけた生活。

➔ 洗礼者ヨハネ、メシアであるキリスト、使徒も引き継いだ

■ 辺境の地に足をつけて生活し、そこから主の御言葉を発信

➔ 鹿追教会が促されている道では？

信仰者の共同体を、地域に根ざし、辺境の地に築いていく

※一つの働きを開始(交わりと移住促進のための宿泊施設)

★ 終わりの時代を 預言者のように歩む ★

- 世界大戦は始まった？ 二極化した世界。イスラエルの戦争。ハイブリッド戦争、組織的フェイクの拡散、サイバー攻撃…
- 現実の戦争は、はるかに激しい霊的戦場の投影。混乱を増すキリスト教界。どこの群れも例外ではない。
- 主が見張られている。これまで以上に堅く御言葉に立とう。信仰を守ること、それ自体が戦いだ。一人で信仰は守れない。

地に足をつけ、信仰共同体を築き、主に用いられていこう

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

しゅ あ しゅんかん わたし よ つか
主のみもとに挙げられる瞬間まで、私は世に遣わされます。

こんとん ふか せかい かた みことば た つづ
ますます混沌を深める世界にあって、堅く御言葉に立ち続けます。

あい きょうだいしまい きた みくに めぐ まえあじ わ あ
愛する兄弟姉妹と、来るべき御国の恵みの前味を分かち合います。

とも しゅ あか ふくいんの つた ひとり いのち すく
共に主を証し、福音を宣べ伝えます。一人の命を救ってください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」